

香取遺産

三菱銀行佐原支店旧
本館保存修理立面図

vol.175

大正時代の
面影を求めて

三菱館の保存修理工事の、耐震補強と外観の修理がほぼ完了しました。間もなく足場が外れ、創建当時の「川崎銀行佐原支店」の姿を見ることができそうです。

これまでと大きく変わったのは屋根です。修理前は銅板葺でしたが、創建当時の天然スレート葺に戻しています。天然スレートとは、粘板岩ねんぱんがんと呼ばれる岩石のことで、耐久性に優れ、古くから屋根材として使用されています。現在は国内での採掘は行われていないため、カナダ産の天然スレートを使しました。一枚一枚、反りや厚みに違いがありますが、熟練の職人の手によって選別され、丁寧に葺かれています。また、ドームや、ドーマーと呼ばれる丸い窓、塔型の装飾などは、一部を残して新しい銅板に葺き替えました。黒い天然スレートと、まだ赤みを残した銅板とのコントラストは、大正時代の人々と、私たちがだけが見ることができる姿です。

ここまでの保存修理は、多くの職人によって支えられました。限られた幅に正確に穴を開ける人、複雑な銅板を葺く人、手間のかかる漆喰しこを扱う人、今は手に入らない金物の作成に取り組む人。木工、鉄骨、板金、左官、塗装、れんが、タイルなど、現代の職人と百年前の職人の真剣勝負が続いています。

文化財を修理する技術者がいなくなってしまうと、文化財そのものを残すこともできなくなります。どのようにして技術を残していけばいいのかが今後の課題です。

まずは外観から、大正時代のたたずまいと、現代の技をご覧ください。



▶天然スレートの屋根と葺き替えられたドーマー

北側正面

西側正面